

香川母と子のいのちを守る会

講演会ご案内

各種お知らせ

閑話休題

演題 「いのちが輝く言の葉」

日時 6月2日(日) 13時30分〜16時

会場 香川県立文書館(県立図書館内)

二階 視聴覚ホール

講師 木村 悠方子

(ことのは語り NPO法人「エフ・

フィールド」 副理事長)

入場料 一般1,000円

(当日1,200円)

学生500円

(中学生以下無料)

主催 香川母と子のいのちを守る会

前売り券希望の方はお寺に連絡下さい。

先日、イチロー選手の引退会見をYouTubeで見ました。特に私が感動したのは「渡米当初、何度か孤独感を感じながらプレーしている」と語っていたが、ずっと孤独感を感じてプレイしていたのか? という最後の質問についてです。

イチロー選手は「現在それは全く無いが、それとは別に米国に来て自分が外国人になったことで、他人の心を慮ったり、他人の痛みを想像したり、今までなかった自分が現れた。これは本を読んだり、情報を得たとしても、体験しないと自分の中からは生まれもないものだ。孤独を感じて苦しんだことは多々あったが、その体験は未来の自分の大きな支えになると今は思う。だから辛いことから逃げるんじゃない、元氣な時に立ち向かっていくことは、人として重要なことではないかと思う」と答えていました。凄いですね。

實相寺花園會報

平成三十一年
四月一日発行
発行所 臨濟宗妙心寺派
陽明山 實相寺
實相寺花園會
〒761-0450
高松市三谷町
1811番地1
TEL087-889-3838
編集発行人 山本文匡
<http://www.jissouji.net>

第120号

「虚谷傳聲」

こころこえをつたう

元妙心寺管長

臥雲庵

松山寛惠老大師

(昭和二年〜平成三十年)

『臨濟録』の序文に「菱花像に対し、

虚谷声を伝う。妙応無方にして、朕跡を

留めず」とあります。菱花(鏡)が物を

写すように、相手に応じて自由に働き、

谷間のこだまが声を返すように、跡を留

めない、の意味です。無心の働きは「あ

れをした、これをした」と恩を売るので

は無く、用が済めばサツと居なくなる、

そんな爽やかな境涯を表した語です。



「平成偶感」

新元号も発表され、新しい時代の到来という気運が高まっていますが、同時に最近、様々なジャンルで平成特集を目にしますので、少し平成という時代を振り返ってみたいと思います。

平成は自然災害の多い時代でした。

平成3年6月雲仙普賢岳火砕流。

平成5年7月北海道奥尻島での津波被害、

冷夏長雨による米不足、タイ米の輸入。

平成6年猛暑による渇水、高松では夜間

断水、時間給水制限。

平成7年1月阪神淡路大震災。

平成16年10月新潟中越地震、また8月の

台風16号で高松は大潮と重なり多数の床

上浸水、10月には23号により県内各地で

土砂災害が発生。日山も崩れる。

平成23年3月東日本大震災。

平成28年4月熊本地震。

平成30年7月西日本豪雨。

他にも全国各地で地震や火山噴火、大雨による被害などがありました。印象に残っているだけでもこんなにあります。

平成7年当時、小学5年生だった佐藤裕子さんは次のような詩を作りました。

あたりまえのことが

食べられること　ねむれること

学校に行けること　友達と遊べること

家族で話せること　大人が仕事をすること

健康で安心なこと・・・

それはあたりまえだった

それが幸せに変わった

平成七年一月十七日

阪神大震災が私に残したこと

川崎洋編 『おひさまのかけら』より

本当にその通りなのですが、果たして私達はそんなあたりまえの毎日に幸福を感じて来たでしょうか？否、恥ずかしいながら私自身は喉元過ぎればなんとやら、つい愚痴ばかりこぼして来た気がします。しかしつい先日もこのことを思い知らされる出来事がありました。

3月28日午前3時頃、警察からの電話で起こされました。次男の乗った車が高速道路でトラックと事故を起こし病院に搬送されたとのこと、慌てて家内と二人で尼崎の労災病院に向かいました。道中、最悪の事態も覚悟しましたが、有り難い

ことに助手席に乗っていた次男は軽傷でした。しかし大変残念なことに後部座席に乗っていた一人は亡くなり、もう一人も休学せざるを得ない程の重傷でした。

次男の話では、クラブの友人4人で日帰り旅行に行った帰り、事故渋滞の最後尾に並んでいたところを後からトラックに追突され、前の大型トラックと挟まれたようです。その後、事故車両も見ましたが、車は原型を留めていないほど大破しており、「全員亡くなっているもおかしくない事故だ」と警察官には言われました。本当に私達が、今こうして生きていることは、不思議なご縁のおかげとしか言いようがありません。平成の最後に、そのことをあらためてかみしめています。